

雷山川水系河川整備基本方針（案）

平成16年2月

福岡県

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 雷山川流域の概要

雷山川は、流域面積 69.1km²、流路延長 16.16km の二級河川である。その源は標高 955.4m の雷山に発し、国道 202 号、J R 筑肥線を横切り、浦志川、初川、長野川等の支川を合わせ志摩町小富士において玄界灘に注いでいる。主に福岡市の西隣に位置する前原市を貫流しているが、雷山川下流域の一部は、前原市の北に位置する志摩町に属している。

雷山川流域は玄界灘に面し、朝鮮半島に近接しているため、古くから大陸文化の門戸としての役割を果たしてきた。また、約 2000 年前の弥生時代に繁栄した古代国家伊都国の支配領域であり、古代における中国大陸及び朝鮮半島との様々な交流をいち早く受け入れた貴重な土地柄である。このようなことから、平原遺跡や釜塚古墳といった史跡が多く、木造千手観音立像、雷山神籠石に代表される国指定文化財も数多く存在する。また、背振雷山県立自然公園などの美しい自然景観を呈する自然公園や、県指定天然記念物である雷山神社の公孫樹や大悲王院のビャクシン等の観光資源も多様性に富んでいる。

流域の 90% 以上を占める前原市は、昭和 60 年に J R 筑肥線が地下鉄との相互乗り入れと同時に電化し、福岡市の中心部と短時間で結ばれたこともあり、現在、大規模宅地開発と国道 202 号及び J R 筑肥線沿線を中心として急速な都市化が進んでいる。また、流域の近傍では、九州大学の移転が予定されていることから、本流域において、今後、更に都市化が進展するものと予想される。

流域の気候は、対馬海流（黒潮）の影響を受けるため温暖な気候であり、年平均気温が 16℃程度で、冬の気候は日本海型に近く、1月の平均気温は 6℃程度である。また、年平均降水量は、おおむね 1,670mm 程度であり、梅雨や台風の影響を受けるため 6月～10月の降水量が多くなっている。

流域の大部分を占める前原市の人口は、約 65,000 人（平成 13 年度現在）であり、そのほとんどが下流の市街地に集中している。上流域の土地利用状況は、左右岸に山が迫り、僅かな平地に水田が存在する。中流域では、J R 駅を中心としつつ、国道 202 号沿線方向へ宅地が拡大する傾向が見られる。

1) 治水の概要

雷山川流域は、梅雨期及び台風期に降雨が集中しており、地形的に山が迫り、河川の流路延長が短いため、過去幾度となく台風や大雨によって災害に見舞われてきた。

主な洪水としては、昭和 54 年 6 月、昭和 60 年 6 月、平成 3 年 9 月、平成 11 年 6 月の水害があるが、中でも平成 3 年 9 月洪水が特筆すべき洪水として挙げられる。その被害状況は、浸水面積 62.6ha、床上浸水 131 戸、床下浸水 312 戸という甚大な被害を受けた。

雷山川では、昭和 54 年 6 月洪水を契機に昭和 56 年から河川局部改良事業として、河道改修に着手している。

2) 利水の概要

雷山川および長野川の河川水は、古くから農業用水として利用されてきており、水田の灌漑用水として河川に堰を設け取水している。

平成 6 年の北部九州は春先からほとんど雨が降らず、福岡市を中心に深刻な渇水に見舞われた。同年 1 月から 8 月までの前原市の降雨量は 556mm と例年にないほど少なかった。しかし、雷山川においては、ため池及び地下水等を利用したことで渇水による農作物等への影響はなかった。

3) 自然環境及び河川利用状況

雷山川上流域（高上橋～上流）は、河床勾配が約 1/50 と急勾配で、狭い谷部を蛇行しながら流下している。そのほとんどが山付きの区間であり、僅かに田畑が広がっている。上流域には福岡県指定天然記念物である大悲王院のビャクシンや雷山の観音杉などがある。その他植生はダンチク、セキショウ、ツルヨシが分布する。鳥類は平地から山地の水辺にコウサギ、アオサギ、ゴイサギ、カワセミ、キセキレイ、上流域で流れの速い浅瀬にカワガラスが生息する。魚類はウグイ、タカハヤ、貝類・甲殻類はカワニナ、ミズレヌマエビ、テナガエビ、モクズガニなどが生息する。

雷山川中流域（吉原井堰～高上橋）は、河床勾配が約 1/280 と流れが穏やかで小規模な瀬や淵が連続している。また、潤橋周辺には左岸、右岸ともに商店・家屋等が多く立ち並び、前原市街地を形成している。中流域は、ため池が多く点在し、河川からの取水とともに農業用水に利用されている。植生は堰の湛水区間に沈水植物のマコモ、砂質地に抽水植物のヨシ、マコモ、ツルヨシなどが分布する。また、鳥類はコサギ、アオサギ、カワセミ、キセキレイ、カイツブリなどが生息する。魚類は平瀬から淵にかけてオイカワやヨシノボリが生息し、上流側の平瀬にタカハヤ、淵にドンコなどが生息する。

雷山川下流域（河口～吉原井堰）は、河床勾配が緩やかで川幅も広く、田園地帯を緩やかに流下しており、河川の連続性が確保されている。河口周辺に塩生植物のハマボウ群落、シバナ、フクドなどの希少種が多く生育している。鳥類は河口を中心に生息するユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメの他、ダイサギ、コサギ等が生

息する。魚類は汽水域に生息するハゼ科のビリンゴが最も多く、その他ヒイラギ、ヤマトシマドジョウなどが生息し、貝類・甲殻類はイシマキガイ、アリアケモドキ、ヒメアシハラガニなどの希少種その他、河口付近にはハマグリ、マガキ、ゴカイ類、スナガニなどが生息する。また、加布里湾沿岸は、環境省レッドデータリストの絶滅危惧Ⅰ類に指定されているカブトガニの産卵場となっている。

左支川長野川上流域（鶴ヶ板川合流点～上流）は著しく蛇行し、瀬と淵が連続している。また、福岡県指定名勝である白糸の滝や県指定天然記念物の蔓龍楓^{ぼんりゅうかえで}が存在する。植生は砂質地にツルヨシ、オランダガラシ、ミゾソバ、ジュズダマなどが生育し、鳥類はキセキレイ、カワガラスなどが生息する。

長野川中流域（大新開井堰～鶴ヶ板川合流点）は、河床勾配が約 1/330 と流れは緩やかで小規模な淵が連続している。植生は水際にツルヨシ、ミゾソバ、ジュズダマなどが生育し、鳥類はコサギ、アオサギ、カワセミ、キセキレイ、魚類は瀬にカワムツ、流れの緩やかな淵や堰の湛水区間にギンブナ、コイ、タイリクバラタナゴ、タモロコなどが生息する。

長野川下流域（河口～大新開井堰）は、河床勾配が緩やかで川幅も広く、田畑または住宅地を緩やかに流下している。植生は砂質地にヨシ、ヌカキビ、ホコガタアカザ、ヒメムカシヨモギなどが生息し、魚類はセスジボラやマハゼなどの汽水域や砂泥底に生息する種が多く、淡水域にはギンブナも生息する。

また、河口付近には福岡県レッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されたカワザンショウガイやミナミテナガエビ、絶滅危惧Ⅱ種に指定されたイシマキガイが生息する。

雷山川流域には、福岡県レッドデータブックの絶滅危惧Ⅱ類に指定されたハマボウなどの希少種が生育しているため、「泉川ハマボウの会」など住民の環境保護に対する意識は高く、河川整備を進める上で希少種等の河川環境の保全及び育成を図る必要性は非常に高い。

雷山川水系の水質は、A 類型に指定されているが、急速な都市化の進展により環境基準値を満足していなかった。しかし、近年の下水道の整備により水質が向上し、平成 11 年度では BOD75%値が 1.8mg/l 以下となっており、ほぼ環境基準値 2.0mg/l を満足している。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

前原市では「第4次前原市総合計画」があり、計画期間を平成13年度から平成22年度と定め、「人と自然が共生する文化創造都市 まえばる」というまちづくりの基本理念を踏まえ、前原市のめざす3つの将来像として、「自然と田園を大切にす美しいまち」、「個性と創造あふれる活力あるまち」、「交流と連携を生かす住みよいまち」を掲げている。

雷山川および長野川の整備においても、これらの基本理念との整合を図り、関連地域の社会、経済情勢の発展に係わる諸計画との調整を行いながら、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全・利用を目指す。

また、その際、地域へ種々の河川情報を提供するとともに、河川に対する要望の集約、河川に係る取り組みの促進・支援を行い、地域住民と連携した川づくりを行う。

1) 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する事項

雷山川および長野川は、想定氾濫面積・想定氾濫区域内の資産状況等を考慮したうえで、30年に1回程度の確率で発生する規模の洪水を安全に流下させることのできる整備を目指す。

また、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過する洪水等に対しては、警戒避難及び情報連絡体制の整備等を関係機関や地域住民等と連携して推進する。さらに、都市化が進む当該流域においては、関係機関と協力して、既存ため池の保全等流域の流出抑制に努める。

2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

関係機関と連携して、河川環境、河川水の利用状況等、現況流況の把握に努める。また、関係機関と協議しながら、限られた水資源の有効利用に努めるものとする。

3) 河川環境の整備と保全に関する事項

河川環境の整備と保全にあたっては、県立自然公園の一部をなす上流域では、現況の自然環境等の保全に努める。

中流域においては、田園風景や自然環境を活かしながら、散策・水遊び・自然観察など、人と自然が共存できる自然環境を目指す。

下流域では、カブトガニの産卵地となっている河口部の干潟環境に配慮するとともに、ハマボウ、シバナ、フクドといった希少な植物や河川環境の保全に努める。

4) 河川の維持管理に関する事項

災害発生防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、地元住民および住民団体等との連携により河川の維持管理を適切に行う。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水は、そのピーク流量を雷山川基準地点幸田橋において $130\text{m}^3/\text{s}$ とする。

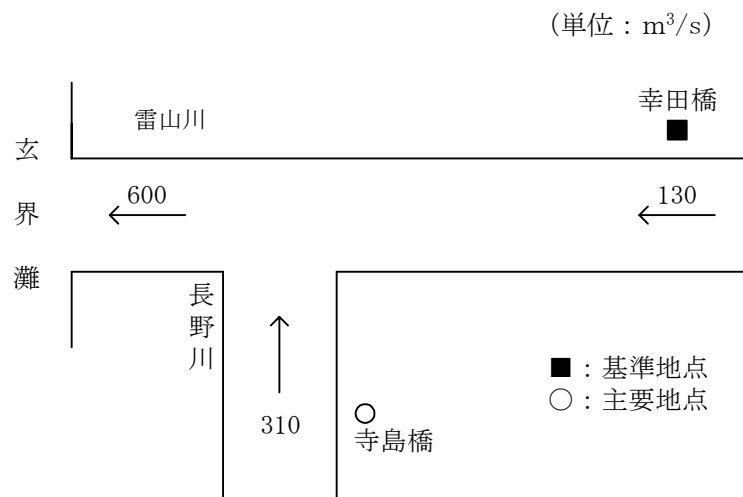
基本高水のピーク流量等一覧表 (単位: m^3/s)

| 河川名 | 基準地点 | 基本高水のピーク流量 | 洪水調節施設による調節流量 | 河道への配分流量 |
|-----|--------------|------------|---------------|----------|
| 雷山川 | ヨウダバシ 幸田橋 | 130 | — | 130 |

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

雷山川における計画高水流量は、基準地点幸田橋において $130\text{m}^3/\text{s}$ とする。

長野川における計画高水流量は、主要地点寺島橋において $310\text{m}^3/\text{s}$ とする。



雷山川計画高水流量図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる概ねの川幅は次表に示すとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる概ねの川幅一覧表

| 河川名 | 地点名 | 河口からの距離 (km) | 計画高水位 (T.P.m) | 川幅 (m) | 摘要 |
|-----|--------------|-----------------|------------------|-----------|------|
| 雷山川 | コウダバシ 幸田橋 | 8.6 | +13.37 | 18.9 | 基準地点 |

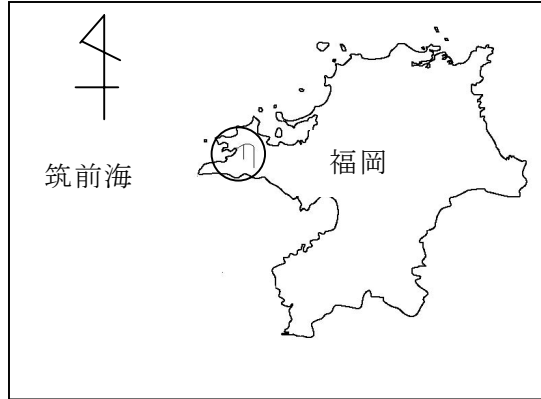
(注) T.P : 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項

流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、今後、流量データの蓄積、水利用の実態把握等に関する調査検討を行う。

雷山川水系参考図

位置図



雷山川流域図

